



——【温州みかん】\*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。——

- 病害虫防除** 8月下旬 ~ 9月上旬 必ず実施しましょう。
- 黒点病 ペンコゼブ水和剤またはジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100㍓ 収穫30日前 4回 \* 極早生に散布する際は、収穫日に気をつけてください。
  - ミカンハダニ ダブルフェースフロアブル 3,000倍 33ml/水100㍓ 収穫前日 1回
  - ミカンサビダニ 又は ダニゲッターフロアブル 2,000倍 50ml/水100㍓ 収穫前日 1回
  - チャノホコリダニ スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100㍓ 収穫前日 3回
  - ヤノ初ガラムシ
- 9月下旬~10月中旬 ○カメムシ類 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50ml/100㍓ 収穫前日 3回  
 又は ロディー乳剤(劇) 2,000倍 50ml/100㍓ 収穫7日前 4回
- 浮皮軽減** **蛭尻期** フィガロン乳剤 3000倍 収穫7日前まで2回 300㍓/10a  
 1回目 蛭尻期に散布 2回目 蛭尻期の2週間後 (※ただし、樹勢が低下している樹には散布しない。)

——【中晩柑】——

- 病害虫防除** 8月下旬~9月上旬 基本防除はみかんの項参照
- \* **中晩柑の防除における農薬の使用日数には十分に注意しましょう。**
  - 例) **ジマンダイセン水和剤 収穫90日前 12月上旬収穫のものには散布できません。**
  - かいよう病(単用散布) コサイド3000 2,000倍 50g/水100㍓  
 (クレフノン200倍を加用)

- 施肥** 中晩柑は秋季も窒素成分を切らさないようにしましょう。
- 初秋肥 9月中旬 特選みかん配合 655 140kg/10a(後期肥大促進・樹勢維持のため)
- \* 10月下旬にもう1度施肥を行います。 特選みかん配合 655 100kg/10a

——【レモン】\*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。——

- 病害虫防除** 8月下旬~9月上旬
- ミカンハダニ ダブルフェースフロアブル 3,000倍 収穫前日 1回 33ml/水100㍓
  - ミカンサビダニ 又は
  - チャノホコリダニ ダニゲッターフロアブル 2,000倍 収穫前日 1回 50ml/水100㍓
  - かいよう病・黒点病 コサイド3000 2,000倍 50g/水100㍓ (クレフノン200倍加用)

- 施肥** 中晩柑は秋季も窒素成分を切らさないようにしましょう。
- 初秋肥 9月中旬 特選みかん配合 655 120kg/10a(後期肥大促進・樹勢維持のため)
- \* 10月下旬にもう1度施肥を行います。 特選みかん配合 655 100kg/10a

——【湘南ゴールド】——

秋口の摘果では肥大促進効果は低いので、病害虫の被害が著しい果実と極小果を中心に仕上げシンニング(摘果)を行いましょう。裾枝・下垂枝の持ち上げ摘果で2S以下を無くしましょう。

仕上げシンニング (摘果)	9月20日	3.9cm~5.4cm	このサイズを残し、 外観を中心に仕上げ摘果
	11月20日	4.8cm~6.5cm	

- 仕上げ摘果・枝吊り**
- 10月以降果実の肥大は緩慢となりますので、その前に小玉果、傷果を摘果し、果実の大きさをそろえましょう。果実の重量で枝が折れたり、裂けやすくなるので、重たくなる前に、枝吊り、枝支えを必ず行いましょう。

- 施肥** 中晩柑の項参照

——【キウイフルーツ】\*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょ。——

**病害虫防除** 9月上旬 ○果実軟腐病 ベルコート水和剤 1000倍 100g/水100㍓ 収穫前日 5回  
\*カイガラムシ多発園では9月上旬～中旬にトランスフォームフロアブル 2000倍 50ml/水100㍓  
収穫3日前 3回

**施肥** 9月中旬と10月中旬に分肥 キウイ配合 100kg/10a  
後期肥大は、年間肥大の20%程度あります。肥料の分肥は9月中旬に60%、樹勢回復には10月中旬に40%の2回に分けて行う事で効果が上がります。

——【水 稲】——

**水稻の生育状況** 令和6年産水稻の生育状況は、草丈は平年より長く、莖数はやや多く、葉色はやや濃い傾向です。出穂期はやや早い状況です。今後の気温は高い予報となっていますので、水管理などで稲への負担を軽減しましょう

**水管理** 出穂後35日(収穫7日前頃)を目安に落水を行いましょ。(土壌条件にもよります)  
落水が早いと登熟が悪くなります。登熟不良や胴割れを防ぐために、完全落水は収穫作業に差し支えない範囲で出来るだけ遅らせましょ。

**高温時対策** 気温が高くなると品質の低下が起こりやすくなります。その対策として出穂期、登熟期の間断かん水、かけ流し、夜間入水を行いましょ。(特に、夜温が高い日はできる限り夜間入水して、水温を下げ、稲の呼吸による消耗を防ぎましょ)

**収穫** 収穫適期は、穂に青籾がはるみ・キヌヒカリ・てんこもりでは15%残っている時期です。

**平年の収穫目安** 5月25日田植えの場合  
はるみ・キヌヒカリ 9月14日頃 てんこもり 9月20日頃

**乾燥** 収穫した籾は、ムシを防ぐため4時間以内に乾燥機に入れましょ。  
コンバインで収穫した籾を急激に乾燥させると胴割れし易くなるので、風乾燥を4～5時間行い水分が20%前後になってから火力乾燥(40℃を越えない)し、玄米水分含量を14.5%～15%に調整ましょ。  
(循環式乾燥機をお持ちの方は、取扱説明書に従い作業を行いましょ。)

**機械の取扱い** 農作業の安全と品質の確保のため、機械は使用前に取扱説明書を読み、機械の性能にあわせて無理せず作業ましょ。

——【う め】——

**夏季剪定** 9月中旬頃までに、縮間伐・立ち枝の間引きを実施ましょ。  
樹の内部に光を入れることで、花芽分化の促進をします。また、夏季剪定の際に残す枝の葉を落とすと翌年の花芽分化に悪影響をします。注意ましょ。

**※灰星病発生園での剪定について**

- ・結果枝(実のなる枝)に症状がある場合は、切り落とします。
- ・被害が多い場合は、側枝単位で切り落とします。
- ・樹全体に症状が広がっている場合は、健全な枝(緑枝など)を残し切り落とします。

**剪定枝は発生源になるので、必ず園外廃棄ましょ。**

——【お 茶】——

**施肥** 秋肥 9月中旬  
秋肥は、貯蔵養分として来年の一番茶に利用されます。光合成が活発化する10月～11月に貯蔵養分として吸収され、越冬芽の充実度に反映し、来年の収穫量を左右します。2回に分肥し、1回目と2回目の施肥の間隔は20日程度を目安とします。

1回目 8月下旬 足柄茶配合 O33 80kg/10a 2回目 9月中旬 足柄茶配合 O33 80kg/10a

**病害虫防除** 8月中旬～9月上旬 病害虫防除の徹底をお願いします。  
○チャハマキ・チャノカミハマキ ファルコンフロアブル 4,000倍 25ml/水100㍓ 摘採7日前 2回